

健康増進へ地域連携

弘大COI
村下教授 文科省で講演

地域住民の大規模な健診データを活用して健康増進モデル構築に取り組み、全国的に注目されている弘前大学COI（センター・オブ・イノベーション）研究推進機構の村下公一教授が8

日、東京都千代田区の文部科学省で講演した。事前に聴講者を定員70人で公募したところ、自治体や民間企業の関係者ですぐ満員に。産学官民連携で生活習慣病や認知症対策に当たってき



弘大のCOIの取り組みについて解説する村下教授＝8日、文科省

た経緯に、耳を傾けていた。COIは同省の研究開発プロジェクト。弘大の取り組みは中間評価で最高ランクに位置付けられてい

る。

村下教授は、青森県が「日本一の短命県」で、医療・健康面の課題が凝縮しているからこそ、先進的な知見を生み出すには最適な地域となる」と解説。

「膨大な健診データと生活習慣の調査を組み合わせて解析し、病気予防、肥満改善などに役立てている」「それぞれの分野で生活者（消費者）との接点を持っている民間企業と連携することで、研究内容を深めて発展させるチャンスが広がる」と語った。

聴講者からは、データ解析時の個人情報保護や、大規模健診での検体の保存方法などについて質問が出た。

（高木圭一）